
第1回綾部市公共施設マネジメントに関する座談会 議事概要

日時 : 平成27年9月2日(水) 13:30~15:35
場所 : 綾部市役所本庁舎3階 第一委員会室
委員 : 舞鶴工業高等専門学校 尾上教授
京都府女性の船「ステップあけぼの」綾部支部 梅原支部長
綾部市自治会連合会 川端会長
綾部ローターアクトクラブ 佐藤会長
綾部市スポーツ少年団本部 志賀本部長
綾部商工会議所女性会 牧会長
一般社団法人綾部青年会議所 南田理事長
綾部市 上原副市長
オブザーバー 日本政策投資銀行地域企画部 遠藤課長
事務局 高橋企画財政部長、岩本財政課長、鎌部計画担当長、村上主任
傍聴席 記者(あやべ市民新聞社、建設タイムズ)、傍聴者1人(種清議員)
配付資料 次第
①座談会の構成・スケジュール
②公共施設マネジメントについて
③市民アンケート調査の結果
④綾部市公共施設等総合管理計画(案)の概要
⑤綾部市公共施設等総合管理計画(案)

1. 委嘱状の交付(机上配布)

2. 市長挨拶

綾部市公共施設マネジメントに関する座談会委員就任をご快諾頂いたことに感謝申し上げます。高度経済成長期、昭和40年代から平成にかけて多くの公共施設が整備されてきた。綾部市だけでも900棟、19.5万㎡もの公共施設がある。これらが老朽化して更新時期を迎え、約6割の公共施設が築30年以上となっている。これをそのまま建替えると向こう40年間で900億円もの投資が必要との試算もある。現状比1.7倍もの負担になり、正直厳しい状況である。綾部市の財政状況をみると非常に厳しい。

高齢化の進行や公共施設に求めるニーズの変化等、公共施設を取り巻く環境も大きく変わってきている。一方、京都縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道の全線開通等、高規格道路の開通もあり、綾部では人の動き、物の動きが変わってきている。工業団地は完売、人手不足、住宅不足等新たな課題も出てきている。田園回帰の傾向によるUターンIターンもみられるなど、綾部に良い風が吹き始めている。全国的に地方創生と言われるが、当市では「綾部創生」が課題である。

良い面と懸念すべき面を状況分析し、総合的・計画的かつ経営的な視点を持ちながら適正な施設配置やサービスのあり方を考えていくべく、平成26年度から公共施設のアセットマネジメントに取り組んできた。公共施設は市民の財産であり、どのように活用して行くかは、市民にとっても重要な問題である。今日の座談会で市民や利用者の代表者、学識経験者の方々から忌憚のないご意見を賜りたい。

今年市制施行 65 周年であり、今年度中に地方版総合戦略を策定する必要もある等、綾部市にとって重要な年である。総合計画、地方版総合戦略、公共施設等総合管理計画の連携も必要となる。今後の綾部市のまちづくりの礎の 1 つとなる。先人が築いてきた綾部を次の世代に繋いでいく、大きな責務があり、その 1 つが公共施設マネジメント計画の策定と考えている。

本日は宜しくお願い致したい。

3. 委員・オブザーバーの紹介

(尾上委員) 非常に重要な問題、舞鶴市も同じ問題である。厳しいことも委員会で発言しなければならぬ。皆さんと様々な角度から議論をしていきたい。

(梅原委員) ボランティアをする中で、保健福祉センターにはよく行っている。いろんな施設を利用する立場で意見をできればと思っている。

(川端委員) われわれ 12 地区の自治会連合会は、それぞれの施設を運営させてもらっている。老朽化したものもある。その辺も見直していかないといけない。

(佐藤委員) 福知山出身で、綾部に関わって来たのは、7 年前、日東精工に入社してからである。様々に勉強させていただきながら、意見をさせていただきたい。

(志賀委員) 3 年目、利用者の立場で要望も含め、発言させていただけたらと思っている。

(牧委員) 冊子(計画案)をいただいたところで、私は公共施設をどのように利用しているかと考えたら、図書館、年に 1 回の健康診断で利用する保健福祉センター、水夢を利用している。水夢は、公共施設にはならないのかな? 利用する人はよく利用する。しない人はしない。市民センターは以前は、いろいろとよく行っていた。中丹文化会館は年をとるといけない。市民センターあたりなら、歩いても、手押し車でもいける。こういう施設も必要ではないかと思っている。

(南田委員) 青年会議所についても、事務局をハートセンターの 3 階において活動している。毎月 1 回を利用している。市内の公共施設を活用させてもらっている。利用者の立場から気づく部分で意見をさせてもらえたらと思っている。

(上原委員) 座談会の委員、大変お世話になりありがとうございます。この取組が綾部市の財政運営を今後、左右するといっても過言ではない。

(オブザーバー: 遠藤氏) 今年度、公共施設マネジメントについて全国 10 か所強の自治体と関わっている。よそ者の視点でお話しをさせてもらえればと思っている。

※市長退席

■事務局より、座談会の概要、本日の座談会の概略について説明

■座長の選出

事務局から座長として上原副市長を選出(異議なしの声)

(上原座長) この会議は座談会であり、審議会のように答申を求めるものではない。進行役として座長を務めさせて頂きたい。この問題が将来の綾部市財政に与える影響は大きい。大胆な選択と集中の下、マネジメントに取り組んでいかねばならないと認識している。皆様からのご意見を頂きたく、宜しくお願い致したい。

4. 公共施設マネジメントについて

事務局 [岩本課長] よりスライド説明

(岩本課長) 今回は公共施設やサービスに関するご提案も頂きたい。

5. 市民アンケート調査の結果について

事務局 [岩本課長] より資料説明

(上原座長) 900 棟、非常に多いと思われるかもしれない。小学校、中学校は、1 施設で 4, 5 棟あり、その分で多くなっているというところもある。

(佐藤委員) 資料 9 頁をみると公営住宅が占める割合が高い。どのような使われ方をして、どこにあるのか。

(事務局：岩本課長) 公営住宅については、主に、低所得者対策として取り組んでいる。場所は、市内一円、各地にある。計画（案）の 57 頁に施設概要を示している。定住支援住宅、水源の里住宅は定住支援のための住宅であり、その他は市民の入居希望者に提供している。

(尾上委員) 資料 9 頁に病院施設が入っていない理由はどういうことか。

(事務局：岩本課長) 一般会計ベースで整理しているためである。ただし、今回の公共施設等総合管理計画では病院事業（公営企業）も対象としている。

(上原座長) 計画（案）67 頁に病院施設を記載している。

(尾上委員) 公共建築物の延床面積 19.5 万㎡は一般会計ベースの数値で病院、上下水道が入ると数字が変わってくる。座談会での議論のベースにしなければならない数値をお示し頂きたい。

(事務局：岩本課長) 公共建築物とインフラ（道路等）、公営企業も計画の対象である。なお、一般会計施設は 25%削減を目標とするが、企業会計施設は原則として削減対象とはせず、長寿命化の目標設定を行う。即ち独立採算を維持する中での目標設定としている。計画の対象としては含めている。

(志賀委員) 資料 12 頁にある直近 10 年間の投資的経費年平均 13.2 億円は、一般会計のみの数値で下水道を除く経費か。上林中学校は建替だが新築のようなものだ。更新だけでなく新規もこの数値に含まれているのか。

(事務局：岩本課長) インフラ（道路等）を除いた全ての普通建設事業費なので（上林中学校のような投資を）含んだ数値である。

(上原座長) 学校建設等も含んだ平均値なので、維持補修費に限ってみるとこの金額はもっと小さくなるのだろう。

(事務局：岩本課長) 一般会計の投資できる金額は過去平均するとこれくらいになる。

(志賀委員) この 10 年間での新築物件はかなり多いはず。

(上原座長) 大型事業を含んだ金額である。よって維持更新費用に限ると 22.8 億円は相当に重たい金額といえる。

(南田委員) 築 30 年経過している建物は老朽化が進んでいるものと捉えられるのか。定義などあるのか。

(事務局：岩本課長) それぞれの建物に耐用年数がある。一概に 30 年で老朽化とは言えない。綾部市の公共施設の半分以上が 30 年以上をこえている。長いものでも 60 年ぐらいが更新時期になってくる。そうすると、40 年見通した時に、更新費用が上がってくる施設がこれだけあるという説明をしている。

(上原座長) 木造、鉄骨造など構造によっても異なるはず。一概には言えないが、年が経っているというとらえ方をしてほしい。

(志賀委員) 市民アンケートの間5で、必要な取捨選択に賛成しているのが60%、積極削減が12%、計72%。利用者側からみると信じられない数値だ。

(上原座長) 綾部市の市民意識が高い結果といえる。総論で言えばこういう回答になったのではないかと、他方、各論になると様々な意見が出てくるのではないかと。

(川端委員) 公共施設を使わない人にとっては、公共施設が要らないとの回答にも進み易いだろう。

(梅原委員) 高齢者の回答割合が高かったとのことだが、特徴がよくでていいる。高齢者は子育て支援施設は利用しないという結果になる。あまり利用しないから削減となると、また違う立場の方もいる。

(志賀委員) 誰が、何を求めているのか、利用してない人には、利用の価値・目的が分からない。

(尾上委員) 施設ごとの利用者アンケート調査を行わなければ実態がでてこないのではないかと。施設利用者の多寡は重要である。一方でごく少数の意見をどのように活かすか、取捨選択が必要となる。そこまでみて初めて判断できるのだろう。個別施設のアンケート調査を実施する予定はあるか。

(事務局：岩本課長) パブリックコメントでの対応を考えている。

(上原座長) パブリックコメントを出すときに働きかけをしてもよい。広報を使って、施設利用者の意見を出してもらおうとか。

(川端委員) 1年に1回しか使わないがどうしても必要だという公共施設もあるはず。厳しい判断をしなければならないこともあると思う。

(遠藤氏) 当行で今年2月に市民意識調査を公表している。公共施設マネジメントの取組には9割賛成している。やや不便になることを許容する割合も9割ある。これを踏まえると綾部市民の7割賛成(その他2割)という回答結果は驚くものではない。なお、9割賛成の内訳である積極賛成と消極賛成の割合は、総論で3:6、各論で1:8というような割合である。

(事務局：高橋部長) 計画(案)のご紹介を通じ、個別具体的な議論を進めさせて頂きたい。

6. 綾部市公共施設等総合管理計画(案)について

事務局 [岩本課長]より資料説明

(事務局：岩本課長) 今日は計画の全体概要と事例紹介に留め、次回座談会にて用途別にご意見を伺いたい。

(尾上委員) 数値目標の設定だが、長寿命化の60~70年とはどのような方法を指しているのか。また、この計画(案)では施設保有量の25%減が成立しているのか。

(事務局：岩本課長) 長寿命化については、取組方針の2つ目に、予防保全型の維持管理を目標として掲げている。具体的には長寿命化の方策として、予防保全的な施設の維持管理と耐震化施設の大規模補修等の手を加えることにより、寿命を10年間、延伸する目標をたてている。25%の目途が立っているかという話については、計画(案)26頁で将来のシミュレーションを行っている。25%削減については、施設毎に今後の方向性を検討しており、積み上げるとこの数値に近い数値になるだろうとみている。

(尾上委員) 計画を一見すると廃止施設が少なかったので質問した。譲渡でどれだけ減るのか分からない。今回の計画(案)が思い切った案なのか控えめの案なのかによって、私たちもどのような話をすべきかわかる。

(上原座長) やや不足するが25%に近い数値になっている。但し10年かけて実行していく計画なの

で、住民の方々と議論すべき施設が多々含まれている。今の段階で基礎ベース（となる数値）を持っている。

（志賀委員）概要版の 2. 取組方針に適正な施設保有量と書いてある。適正な基準というものはあるのか。

（事務局：岩本課長）これが最適という数値はない。国の基準もなく、綾部市として考えていくべきものだろう。最適化への道筋は今後の進め方によって変わる。

（志賀委員）パワーポイント資料では公共施設等の最適な配置とある。一方で適正な保有量という表現にはどこまで拘りをもっているか。

（事務局：岩本課長）公共施設の利用者にとっての適正、使わない方にとっての適正、それぞれあると思う。それらを通じて最終的に最適化を図っていくということ。国でも最適配置という表現を用いている。語句の使い方については説明できるように整理したい。

（牧委員）大阪から嫁いできて 40 年になる。都会の施設に比べれば老朽化しているものの不便なく納得して使っている限りでは、無理に（公共施設を）壊さなくても良いのではないかとも思う。空き家も増えてきているが、無理して建て直さなくても綾部らしくはんだり、優しく暮らせるのではないかと思う。

（遠藤氏）市民アンケートの項目 問 7 は様々な自治体で行っているもので、横比較ができる。例として松江市と比較してみると、近隣自治体との共同による建設運営の回答比率がやや低い（松江 73%、綾部 56%）。一方、利用料金の引上げ等による利用者負担については、通常嫌がられる項目ながら、回答率が高い（松江 29%、綾部 41%）。他市に比べて公共施設の愛着度が高い可能性がある。

（上原座長）近隣自治体との共同は昔から議論してきたテーマである。合併も行っていない。各市、立派な野球場がある。高校野球の地方予選も持ち回りで行われてきた。利用料金についてはこれまでが安すぎたと考えてもらっているなら有難いが…。

7. その他

（事務局：岩本課長）今後のスケジュールだが、9～12 月に 3～5 回程度の座談会開催を予定しており、次回は 10 月に開催したいと考えている。あわせてパブリックコメントも 11～12 月に実施予定。計画は平成 28 年 3 月に策定予定。

以 上